

【資料紹介】

森銑三刈谷日記・上（大正五年六月一七日〜一二月三〇日）

高木 浩明

はじめに

大正三（一九一四）年、刈谷町（現在の愛知県刈谷市）の医師で町会議員であった宍戸俊治⁽¹⁾と町会議員、藤井清七⁽²⁾の両氏が、刈谷藩の藩医で国学者であった村上忠順⁽³⁾の旧蔵書、二五、一〇四冊（忠順自身の著書七七種三八〇冊も含む）を村上家（現在の豊田市高岡町）から一括購入し、さらに本を収蔵するための書庫ならびに図書閲覧室を新たに建築して、刈谷町（現在の刈谷市）に寄贈した。その膨大な本の整理を行うことになったのが刈谷町（現在の刈谷市）出身の近世学芸史家、森銑三⁽⁴⁾である。

……大正五年には私は数へ年二十二歳で、全然空白の状態で、無鉄砲に古書の整理を始めたのでした。それで最初は、全く五里霧中に彷徨するやうな状態だったのですが、宍戸先生が生きたる百科全書ともも申上げたいやうな広い知識の持主で、古書にも精通してゐられたものですから、先生からいろはの文字から手ほどきしていただいたやうな恰好で仕事を始め、先生のお持ちの『国書解題』に『漢籍解題』後には朝倉無声の『日本古刻書史』だとか、富士川博士の『日本医学史』だとか、出来て間のない『名古屋市史』の学芸篇だとか、さうした参考書類をも貸していたゞき、一方亀城校から人名辞書を借りて来、なほ分からぬことは、亀城校へ出かけて行つて、

三省堂の『日本百科大辞典』を調べ、それでも手に負えない書物は、電話で御都合を伺つては、宍戸先生へ持参して教を請ひ、何から何まで先生にすがつて目録を作上げたやうな次第です。ですから先生がお出にならなかつたら、手も足も出なかつたらうと思ふのであります（以下略）。

〔刈谷図書館の村上文庫〕『森銑三著作集 第十一巻』所収）

森は大正五（一九一六）年六月下旬から同七（一九一八）年三月末までの一年九ヶ月間、臨時雇いという身分で本の整理を精力的に行い、目録を完成させた。

今回紹介する刈谷町立刈谷図書館の日誌は、大正五（一九一六）年六月一七日から大正六（一九一七）年六月三〇日までのものであるが、長らく誰の目に触れることもなく、図書館書庫内のダンボールの中で眠っていたものである。

図書館の草創期、宍戸俊治、藤井清七の両氏によって寄贈された村上忠順の旧蔵書が分類整理されていく様が森によって克明に書き記されている。作業はほぼ毎日、

森は早い時には午前五時三〇分に出勤し、遅いときには午後七時に退出するまで、時には隣接する亀城尋常高等小学校の児童^③の手を借りながら精力的に行っている。

図書館の勤務日誌というより、森個人の日記といつてもよいようなもので、紹介するに際して、「森銑三刈谷日記」と仮題した。森の正統三〇巻にもなる著作集にも当然のことながら収録されておらず、文字通り百年の眠りから覚めた貴重な資料の出現である。本日誌の書誌を以下に簡単に記す。

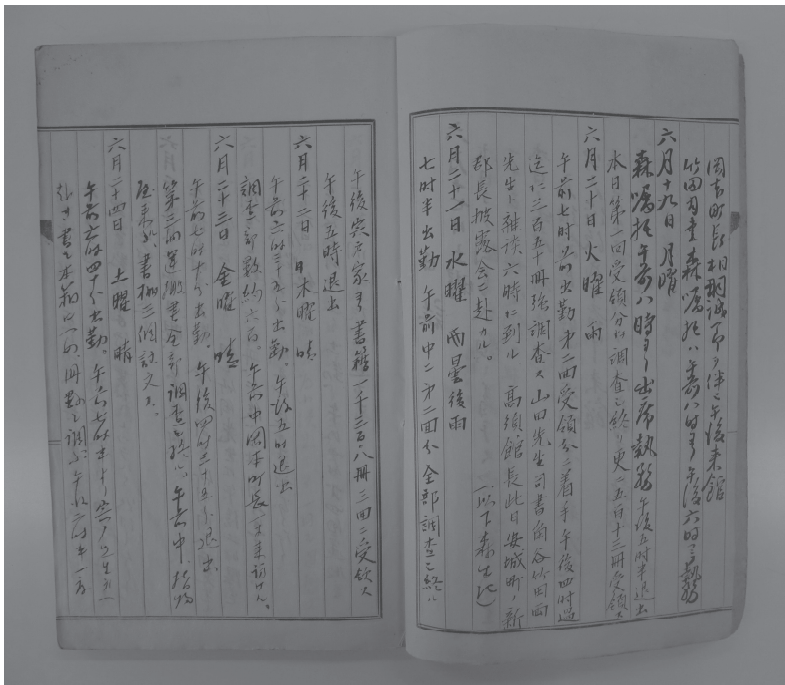
「大正五年六月／日誌／刈谷町立刈谷図書館」と墨書せる厚手無地の紙表紙。二四・二×一六・三糎、大和綴。四周双边（一九・四×一二・六糎）有界、每半葉一二行の青色原稿用紙に墨筆で記述。漢字平仮名交。五五丁。

日誌

（大正五年）

六月十七日土曜

本日ヨリ図書分類二着手ス。宍戸家ヨリ図書／一千五百冊受領ス。但シ六冊新書。／本日ノ出席者、左ノ如シ。／高須館長^④、竹田、角谷両司書、森嘱托^⑤。／宍



森銃三刈谷日記（刈谷市中央図書館所蔵）

戸俊治氏、午前中来館。／係員八午前八時ヨリ午後六時マデ執務。

六月十八日 日曜

本日ノ出席者、左ノ如シ。／高須館長、竹田、角谷町司書、森囑托。／宍戸俊治氏、午前中来館。／岡本町長⁽⁵⁾、相羽誠一郎ヲ伴ヒ、午後来館。／竹田司書、森囑托⁽⁵⁾、午前八時ヨリ午後六時マデ執務。

六月十九日 月曜

森囑托、午前八時ヨリ出席、執務。午後五時半退出。／本日、第一回受領分ヲ調査シ終リ、更ニ五百十三冊受領ス。

六月二十日 火曜 雨

午前七時前出勤、第二回受領分ニ着手。午後四時過ノ迄二三百五十冊強調査ス。山田先生、司書角谷、竹田両ノ先生ト雑談、六時ニ到ル。高須館長、此日安城町ノ新ノ郡長披露会ニ赴カレ。(以下、森生記)⁽⁶⁾

六月二十一日 水曜 曇後雨

七時半出勤、午前中ニ第二回分全部調査シ終ル。／午後、宍戸家ヨリ書籍一千三百八冊、三回ニ受領ス。／午後五時退出。

六月二十二日 木曜 晴

午前六時三十五分出勤、午後五時退出。／調査部数約六百。午前中岡本町長等来訪サル。

六月二十三日 金曜 晴

午前七時十分出勤、午後四時三十五分退出。／第三回運搬書、全部調査シ終ル。午前中、指物／屋来ル。書棚三個註文ス。

六月二十四日 土曜 晴

午前六時四十分出勤。午前七時半より宍戸先生方へ／赴き、書を本箱につめ、冊数を調ぶ。午後二時半、一度／図書館に帰り、更に小使と共に書を受取に行く。／今日二回に一千四十七冊受領せり。内五百冊、高／一児童数名に手伝ひ貰ひてレツテルを貼付したり。／午後四時半退出。

六月二十五日、午前 日曜、曇後雨

午前七時半出勤、今日は司書竹田、角谷両先生も／出席せられたり。但シ、竹田先生は、午後二時帰宅。／調査書数、約六百冊。午後五時、角谷先生と共に／退出。午前中に岡本町長の来訪ありたり。

六月二十六日 月曜 終日雨。

午前七時十五分出勤。午後四時、第四回運搬書／全部調査シ終ル、退出す。

六月二十七日 火曜 午前晴、午後雨。

午前六時半出勤、同八時より宍戸先生方へ行きて本を／空の本箱に詰める。雨の為、小使来らず、一冊も運搬せず。／三時半学校へ帰り、四時帰宅す。

六月二十八日 水曜 雨

今日も雨にて書籍運搬する事能はず。午前七時半、図書館より、レツテル、カードを持ちて宍戸先生方へ赴き、／本箱にまだ詰めざる書を調ぶ。午後五時迄に三百五十冊を終りて退出す。

六月二十九日 木曜 曇後晴

午前七時十五分、図書館に出勤。直ちに宍戸先生方へ赴き、終日同所あり。本日五回に書籍二千七百冊を運搬す。午後五時四十分退出。

六月三十日 金曜 晴

午前七時出勤。昨日運搬書を調ぶ。二冊過剩／す。乃ち総計二千七百十冊たりし也。本日調査部数／約四百、午後高一児童数名に手伝ひ貰ひたり。／午後四時半退出。

七月一日 雨後止む

午前七時三十五分出勤、午後四時三十五分退出。／調査書数約四百冊。午後岡本町長来訪さる。

七月二日 日曜 晴

午前七時三十分出勤。午後正五時退出。／午前中角谷先生手伝はれたり。調査部数／三百余冊、割合にはかの行かざりしは大部の本のなかり／しと、一はレツテルを自分にて貼り居りしが故也。

七月三日 月曜 晴

午前六時二十分出勤、午後四時半退出。／調査部数四百余冊也。

七月四日 火曜 曇、午後一時雨、間なく止む。

午前七時三十五分出勤、午後四時三十分退出。／調査書籍数約四百冊。

七月五日 水曜 晴

午前七時出勤、午後五時過退出。／午前中、二百余冊調査シ、午後は今次に宍戸先／生迄提出すべき不審書目を取調ぶ。

七月六日 木曜 曇

午前七時出勤、午後四時半退出。午前中八時／日調査

せし不審書目百二十部を浄書し、午後／宍戸家より書籍五百六十五冊運びたり。其／折不審書目も提出せり。

七月七日 金曜日 晴

午前七時十五分出勤、午後四時三十分退出。／先回運搬分二千七百十冊、本日調査シ終る。／窓に日覆取つかうたり。

七月八日 土曜 晴

午前七時三十分出勤、午後五時退出。／一昨日運搬書三百余冊調査す。角谷司書／午後来館。児童二名にペーパー貼付を頼む。／書庫の戸締り出来上る。書庫の予備鍵一個／町長に保管方を依頼したり。

七月九日 日曜 晴

午前八時出勤。直ちに宍戸先生方に赴き、午後六時退出。高須館長、午前出勤。角谷司書／出勤。児童六名を督し、書棚七個並に調査済／書籍七千部書庫へ移す。宍戸家より書籍／三回に一千六百冊運搬す。役場使一―二名、／書庫掃除の為午前来館。

七月十日、十一日、十二日

三日間に亘りて志賀重昂氏^のの講演会開催、臨時／休館^動す。

七月十三日 木曜 曇

午前七時出勤。午後四時二十分退出。先日穴戸／先生に御調査を願ひし不審書類約二百五十冊を／整理し終り、更に七月六日運搬分全部調査し／終る。午後二時間、高一児童四名（森下周之助、／深谷茂、宮石博、久米光男）にペーパー貼付、／書籍入庫、及びカード分類を頼む。猶、藤井氏方／書籍の運搬、書棚の増設、並に破本の製本を／依頼したり。図書館入口の鍵出来る。午後角／谷司書来館。

七月十四日 金曜 晴

午前七時十分前出勤、午後四時三十分退出。／午前中二時間、高須館長在館、午後一時間、高／一児童四名（森下周之助、深谷茂、宮石博、森次郎）／二ペーパー貼付其他頼む。調査書数約三百五十冊。

七月十五日 土曜 晴

午前七時出勤、午後五時退出。午前中壱時間余、／高須館長在館。午後高一児童三名（深谷茂、／宮石博、森次郎）二二時間、ペーパー貼付、図書入庫／を頼む。午後四時、小山藤井氏来訪あり。図書運／搬に付き打合せありたり。本日調査部数約四百余冊。

七月十六日 日曜 晴

午前六時四十分出勤、午後四時半退出。／竹田、角谷両司書も出勤、書籍四百冊調査す。／暑気甚だし。午前中、宮石博、深谷茂兩人来りて手伝ひ呉れたり。

七月十七日 月曜 晴

午前七時三十分出勤、七月九日運搬書全部調／査し終り、午後四時退出す。高須館長午前中／一時間館に在りたり。

七月十八日 火曜 晴

午前七時二十分出勤。穴戸家へ赴き、図書整理／中、藤井家より書籍来るの電話あり。直ちに帰り／て、藤井家の書籍、第一回二千三百三十一冊領収す。／高一児童五名（久米光男、宮石博、森下周之助、／岡本実次、森次郎）を頼み、数を調査し、午後／レットルを貼らしむ。午後五時更に藤井家より第／二回二千二百五十冊を冊受領す。午後五時三十分退出。

七月十九日 水曜 晴

午前七時二十分出勤、午後六時退出。／午前九時半、藤井家より第三回書籍二千六百冊／十冊受領す、午後五時半、更に第四回二千三百四十八冊受領す。本

日書数調査其他を頼み／たる児童並の如し。白井満寿雄、小笠原孝一、鶴／見健吉、深谷茂、吉川政吉、竹中治助、池田秀／夫、高須豊、森次郎。此日書数の調査、対照、計／算に追はれて、分類したるもの僅に百五十冊のみ。

七月二十日 木曜 晴

午前七時十五分出勤、昨日受領書籍の冊数を調／査し、四回分の正誤表を作製す。午後公会堂に／於て、衛生講演会あり。午後三時半より宍戸先生／の講話を聴く。調査部数百冊。本日午前中／一時間、冊数調査を頼みし児童、小笠原洪一、鶴見／健吉、森下周之助、深谷茂、宮石博、森次郎。

七月二十一日 金曜 晴

午前七時二十分出勤、午後四時十五分退出。／藤井家より来りし第一回分書籍三百五十冊調査／分類す。午後二時間、高須館長在館。疑問書／類を質問す。役場より椅子五脚受領。

七月二十二日 土曜 曇

午前七時出勤、此迄分類し終りたる書籍約一万／冊のカードを整理す。不日宍戸先生の校閲を得ん／が為也。

整理中部門をあやまりたる書籍多く発／見し、ペーパーを貼り直して改めたり。午後間、五十／冊書籍分類す。今明日、当町秋葉神社祭礼⁽⁸⁾也。／午後四時退出。

七月二十三日 日曜 晴

午前九時出勤、書籍二百余冊分類す。お祭なれ／ば、早く切上げて、午後三時半退出す。

七月二十四日 月曜 晴

午前七時二十五分出勤、午後四時退出。ペーパー貼付其他を手伝ひくれたる／高等科児童並の姓名、時間等を調べ、竹田司書／に提出す。藤井氏か書籍、仮領収書を同じく／竹田司書より高一の児童にあつらへたり。午前一／時間、高一児童八名（久米光男、鶴見健吉、吉川／政吉、竹中治助、岡本実次、高須豊、池田秀夫、／森次郎）を督し、ペーパー貼付して後、調査済書／籍を書庫へ収めたり。分類部数約三百五十冊強。

七月二十五日 火曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。／七月十三日ヨリ昨日迄手伝ひ呉れし児童に左の如／く薄謝す。雑記帳二冊、鉛筆一本宛、宮石博、／深谷茂、森次郎。雑記帳一冊、鉛筆一本宛、森／下周之助、久米光男、鶴

見健吉。鉛筆二本宛、／小笠原洪一、岡本実次、高須豊、竹中治助、池田／秀夫、吉川政吉、白井萬寿雄。分類書数四百余冊。

七月二十六日 水曜 晴

午前七時二十分出勤、午後四時退出。午前中角／谷司書、午後竹田司書出勤。藤井家より受領せし第一回書籍二千三百冊分類し終る。十九日より／今日に到る八日間、一日平均約三百冊也。

七月二十七日 木曜 雨

午前七時三十分出勤、午後四時退出。竹田、角谷／両司書、半日出勤。高一児童、鶴見健吉、久米光男／及び森次郎、午前中三時間手伝ひ呉れたり。／正午前、小山藤井氏来訪。来月七日頃、書籍残部を／送付すべき事を告げて帰らる。本日第四回受領書／籍五百余冊分類す。

七月二十八日 金曜 曇

午前七時半出勤、午後四時過退出。竹田、角谷／両司書、午前半日出勤。午後高一児童五名（白／井萬寿雄、小笠原洪一、森下周之助、鶴見健吉、森／次郎）に、パー貼付を頼みたり。本日調査部数／六百余冊。

七月二十九日 土曜 曇

午前七時二十五分出勤、午後四時退出。／午前三時間、森下周之助来りて手伝ひ呉れたり。／午後、宍戸先生へ持参すべきカードを整理し、部分を／分ちて腹帯す。本日分類書数約四百冊。

七月三十日 日曜 晴、曇

午前七時三十分出勤。午後四時退出。午前中／森下周之助、森次郎手伝ふ。午後、宍戸先生方へ／カードを持参し来る。本日、藤井家より第四分受領／書籍中、群書類従と丹鶴叢書を除きたる／残部一千五百冊を分類し終り、更に第二回受領／分三百余冊分類す。

七月三十一日 月曜 晴

午前七時二十五分出勤、午後四時退出。／午前中、森下周之助、久米光男、森次郎来館。／手伝ひ呉れたり。本日分類冊数四百余冊。

八月一日 火曜 曇

午前七時十五分出勤、午後四時退出。午前十時、藤／井家ヨリ書籍一千八百五十四冊受領す。森下周／之助、久米光男、午前中三時間余手伝ひ呉れたり。／本日調査部数五百余冊。

八月二日 水曜 晴

午前正七時出勤、午後四時退出。午前中二時間、／森下周之助、森次郎、手伝ひくれたり。調査部数／四百余冊。

八月三日 木曜 晴

午前七時出勤、午後四時半退出。午前中、／森下周之助二時間、久米光男一時間、手伝ひ呉れたり。／午後、郡長来観さる。調査部数四百余冊。

八月四日 金曜 晴

午前七時十五分出勤、午後五時退出。午前中にて／第二回分書籍二千二百冊分類し終り、午後第五回／分百冊分類す。森下周之助、午前一時間、鶴見健／吉、森次郎、午後一時間手伝ひ呉れたり。

八月五日 土曜 晴後曇

午前七時出勤、午後四時退出。午前中二時間、森／下周之助一時間、久米光男、森次郎、午後一時間、久／米光男、白井兆萬寿雄、鶴見健吉、森次郎、手伝ひ／呉れたり。本日公会堂に女子同窓会あり。時々傍／聴す。分類書籍三百余冊。

八月六日 日曜 晴後雨

午前七時出勤、午後四時退出。／調査部数五百余冊。

八月七日 月曜 晴

午前七時十分出勤、午後四時退出。午後一時／間、白井萬寿雄手伝ひ呉れたり。調査部冊数、／四百余冊。

八月八日 火曜 晴

午前六時四十五分出勤。午後四時過退出。午前／中二時間、白井萬寿雄、森下周之助、宮石博、森次郎の四人、手伝ひ呉れたり。

八月九日 水曜 晴後雨

午前七時十分出勤、午後四時三十分退出。午前／中一時間余、宮石博、白井萬寿雄、久米光男、森／次郎の四名、手伝ひ呉れたり。角谷司書、午前午後／二時間出勤、午後、松雲堂の請求書書上ぐ。分類／書数、三百五十冊。

八月十日 木曜 晴後雨

午前七時二十分出勤、午後四時退出。午前中一時間、／宮石博手伝ひ呉れたり。午後一時間、角谷司書／出勤。書籍分類後の仕事に付、打合せしたり。／分類冊数、約四百冊。

八月十一日 金曜 曇

午前七時出勤、午後四時退出。第五回受領書、一／千八百冊並二群書類從六百六十冊分類シ終り、／新に第三回受領分三百冊余分類ナす。午前中／一時間、久米光男手伝ひ呉れたり。

八月十二日 土曜 晴

午前七時十五分出勤。午前^マ四時退出。分類冊数／三百五十。旧盆十四日也。

八月十三日 日曜 晴

午前七時三十分出勤、二百冊分類す。森下周之／助、一時間手伝ひ呉れたり。午後、新須磨⁹⁾に遊ぶ／べく、午前中にて退出す。

八月十四日 月曜 晴

午前七時二十五分出勤、午後四時退出。／分類冊数三百五十余、午前中一時間、久米光男、／森次郎、手伝ひ呉れたり。

八月十五日 火曜 晴

明日、名古屋へ赴くべく其準備あり。午前五時／半出勤、午後一時半終る。分類冊数、三百五十。／久米光男、森次郎、午前中一時間手伝ひくれたり。

八月十六日 水曜 晴

全日休業。／名古屋国技館に巖谷小波、久留島武彦氏のお伽／講演¹⁰⁾を聴く。久米光男、森次郎同行す。

八月十七日 木曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時半退出。調査冊／数三百五十。午前中一時間、森下周之助、手伝ひ呉れたり。

八月十八日 金曜 曇

午前七時出勤、午後四時半退出。分類冊数三百／五十。午前中二時間、久米光男、森次郎、手伝ひ呉／れたり。

八月十九日 土曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時三十分退出。分類／冊数三百余冊、小部原本のみにては、わがわかざりき。／久米光男、森次郎、午前一時間手伝ひくれたり。

八月二十日 日曜 晴

亀城同窓会に付、休業す。

八月二十一日 月曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。今日を以て藤／井家の第三回受領書、分類シ終る。森下周之助、午後／一時間余手伝ひ呉れたり。

八月二十二日 火曜 曇

午前七時半出勤、午後四時半退出。終日端本¹¹⁾を／調

査す。久米光男、午後一時間手伝ひ呉れたり。

八月二十三日 水曜 雨

午前七時十五分出勤、午後四時退出。午前中／高須館長出勤。田中製本所へ破本の手入れを／頼む。午前中に端本全部調査し終り、午後、罫／紙に浄書^し、尚カードを分類す。共に明日宍戸先生／へ持参せんが為也。森下周之助、午前中一時間手伝ひ呉れたり。

八月二十四日 木曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。午前中、高／須館長出勤さる。カードを整理せし。不審書類／を調査す。午後本を運ぶべく、宍戸家へ赴きたる／に、先生不在の為、カードと不審書目を置いて帰る。／久米光男、森下周之助、森次郎、午前中一時間／手伝ひ呉れたり。

八月二十五日 金曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。午前中は宍戸家／に在り。書籍七回に三千五百二十五冊運搬す。午／後其の冊数を改め、空の本箱をまとむ。森次郎、午／前三時間、森下周之助、午後一時間、手伝ひ呉れたり。

八月二十六日 土曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。午前宍戸家よ／り、書

籍六百八十二冊運搬し、これにて宍戸家の全部を／受領し終りたり。空の本棚全部返済^す。午後／角谷司書出勤。宍戸先生の御調査を乞ひたる。／不審書類二百冊分類す。森次郎、午前二時間／手伝ひたり。

八月二十七日 日曜 晴

午前七時出勤、午後五時退出。一昨日、宍戸家よりの／運搬書の調査にかゝる。四^百冊分類す。午前角／谷司書出勤。久米光男、一時間手伝ひ呉れたり。

八月二十八日 月曜 晴

今日より学棧校始まる。午前七時出勤、午後四時／退出。休暇中、手伝ひ呉れたる児童の時間^中日数を／調べ、書籍四百余冊分類す。棚新に（一字分空白）個出来す。／今日手伝ひ呉れたる児童、宮石博、森下周之助、森／次郎、以上、午前中一時間。

八月二十九日 火曜 晴

午前七時二十分出勤、午後四時退出。分類冊数四百／余冊。午前中一時間、久米光男、森下周之助、森次郎／手伝ひ呉れたり。

八月三十日 水曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。書籍四百余冊／分類す。

午前中一時間、森下周之助、宮石博、森次郎、／午後一時間、久米光男手伝ひ呉れたり。

八月三十一日 木曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。角谷司書出／勤。書籍四百五十冊分類す。煙草盆、箒、ハタキ、／上草履、紅葉屋より購求す。森下周之助、午前／二時間手伝ひ呉れたり。

九月一日 金曜 曇

午前六時四十分出勤、午後三時半退出。書籍四百／余冊分類す。午前中一時間、久米光男、森下周之助、／森次郎、手伝ひ呉れたり。

九月二日 土曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。書籍四百／余冊分類す。午前中一時間、久米光男、手伝ひ呉／れたり。

九月三日 日曜 晴

午前六時三十分出勤、午後四時退出。高須館長、竹田、／角谷両司書も全日出勤。書庫の書籍を棚に詰め始む。／休暇中手伝ひ呉れたる児童をして手伝はしめ、左記の謝儀を／与へたり。森次郎（廿五錢図書券）、白井満寿雄、鶴見健／吉（六錢図書券）、宮石博、小笠原洪一

（三錢図書券）。

九月四日 月曜 晴

午前七時退出、午後四時半退出。午前中書／籍二百余冊分類し、午後、書庫の書を詰め換ふ。／午後、竹田、角谷司書出勤。午前一時間、森下周之助、／久米光男手伝ひ呉れたり。二人に休暇中の謝儀として、／二十五錢図書券一枚宛与ふ。

九月五日 火曜 晴

午前七時十分出勤、午後四時過退出。午前十一時迄／書籍二百余冊分類し、午後昨日の如く書の詰め／換をす。角谷、竹田両司書、半日出勤。午前午後四／時間、森下周之助、岡本実次、森次郎手伝ひ呉れたり。

九月六日 水曜 晴

午前七時十分出勤、午後四時退出。小山藤井家より使／あり。これまで六戸、藤井両家より受領せし書籍総冊／数を調べ通知す。今日を以て二十五、二十六日両日に運／びたる書籍の分類を終り、猶不審書目を調査す。

九月七日 木曜 晴

午前七時出勤、午後五時半退出。午前、カード全部／

整理して、宍戸先生マにへ持参す。先生御不在、置いて帰る。／不審書類を調査し、午後は竹田、角谷両司書と、五（稿者注、第五門、法制・経済・社会）、六（稿者注、第六門、数学・理学・工学・医学、／七（稿者注、第七門、兵事・産業・交通・家庭）、八（稿者注、第八門、美術・諸芸・工藝）、四門の書を棚に詰む。久米光男、宮石博、森下周／之助、森次郎、午前午後四時間手伝ひ呉れたり。／破本をとぎ直す職人来て、一日作業す。青のレットル千枚、／カード（但し白紙）百八十枚注文す。

九月八日 金曜 晴

午前七時十分前出勤、午後四時退出。午前、不審書／類調査。午後、角谷、竹田両司書と九門（稿者注、類書・叢書・随筆・全集）、十門（稿者注、雑書・講議録・新聞紙・雑誌・官報・広報）の書／を棚に詰む。今日手伝ひ呉れたる児童、午前一時間、／久米光男、森下周之助、午後三時間、阪田林之助、正／木正夫、午前午後四時、宮石博、森次郎。書籍と／ぢ直しの職人、終日作業す。

九月九日 土曜 晴

午前七時出勤、午後五時過退出。午前、宍戸先生／訪問。不審書類を取調ぶ。午後、宍戸先生図書館／へ来館。竹田、角谷両司書と書籍の詰め方其他に付／協議す。宮石博、森下周之助、久米光男、森次郎、／二時間余手伝ひ呉れたり。

九月十日 日曜 晴

午前七時半出勤、午後四時退出。不審書類の冊数／解りたるを分類し、書庫の棚より一門及び二門（稿者注、第一門、神祇、第二門、宗教・哲学・教育）の書／籍全部を出して、甲乙丙に分類す。久米光男、阪／口林之助、森下周之助、森次郎、午前一時間余手伝ひ／呉れたり。

九月十一日 月曜 曇

午前七時出勤、午後四時退出。不審書類の分りたるを／分類す。四百五十余冊。白井満寿雄、森下周之助、宮石／博、阪田林之助、森次郎、午前三十分間手伝ひ／くれたり。

九月十二日 火曜 曇

午前七時出勤、午後四時退出。午前中不審書類／を調べ、午後国書解題に依て、第一門、神祇書の著者／部

門を訂正す。

九月十三日 水曜 雨

午前七時二十分出勤、午後四時退出。昨日残したる／
第一門の書籍の訂正^{校正}終り、更に第二門、三百余冊／校
正す。書棚二個新に調製す。

九月十四日 木曜 晴

午前七時二十分出勤、午後四時退出。午前中にて／第
二門甲（稿者注、宗教）の再調査終る。午後、三門甲
（稿者注、文学）を分類す。／手伝ひ呉れたる児童、
午後二時間、阪田林之助、白井／満寿雄、宮石博、森
次郎。一時間、森下周之助。

九月十五日 金曜 晴

午前七時五分前出勤、午後四時退出。午前中、昨／日
宍戸先生より拝借せし村上氏の蔵書目録によ^り／よ^りて、
不審書類二百冊調査し、分類す。午後第／三門（稿者
注、文学・語学・修辭）を棚より出して、甲乙一、二、
三（稿者注、甲・一、総記雑書、二、合集、三、詩漢
文、乙・一、総記雑書、二、言語、三、音韻）を分類
す。白井／満寿雄、森下周之助、久米光男、宮石博、
一時間／手伝ひくれたり。

九月十六日 土曜 雨後晴

午前七時半出勤、午後四時退出。午前中端本／類の冊
数調査、分類。午後二門、哲学書を再調査す。／午後
三十分、阪田林之助、宮石博、森下周之助、手伝ひ／
くれたり。印刷せざるカード二百枚注文す。

九月十七日 日曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。終日不審書類を分／類
す。角谷先生、午前午後出勤。児童三名破本を／とち
直しくれたり。阪田林之助、八時間四十九冊、森下周
／之助、六時間二十六冊、宮石博、三十分。田中活版
所より／本の縮木一時貸^りたり。

九月十八日 月曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。午前中端本書類を／分
類し、午後、二門乙四、倫理書類を再調査す。

九月十九日 火曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。終日、二門乙、
倫／理書類を再調査す。午後一時間半、阪田林之助、
正／木正夫、宮石博、森次郎、破本のとち直し、其他
手伝ひ／くれたり。

九月二十日 水曜 晴

臨時休業。

九月二十一日 木曜 晴

七時十分出勤、午後四時退出。一日、二門の乙、支／那哲学を再調査す。午前一時間半、宮石博一時間、／森下周之助、高須豊、久米光男、鶴見健吉、手伝ひ／くれたり。

九月二十二日 金曜 雨

午前七時五分前出勤、午後四時退出。午前中に／二門乙、哲学の再調査を終り、午後は高等科児／童父兄懇談会に出席す。宮石博、久米光男、／高須豊、深谷茂、鶴見健吉、森次郎、白井満寿／雄、森下周之助、阪田林之助の九名、午後一時間／手伝ひくれたり。

九月二十三日 土曜 雨

午前七時二十分出勤、午後四時退出。三門甲一（稿者注、文学・総記雑書）及び二（稿者注、合集）を／再調査し、甲三（稿者注、詩漢文）及び四（稿者注、国文）の書を出してカードを挟みたり。／手伝ひくれたる児童、鶴見健吉、森次郎、宮石博、／森下周之助、深谷茂、以上、午前午後。阪田林之助、久米光男、／白井万寿雄、以上、午後半日。

九月二十五日 日曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門甲三（稿者注、詩漢文）の書籍／五百余冊再調査す。午前中三時間、鶴見健吉、二時間、／阪田林之助、森下周之助、手伝ひくれたり。

九月二十五日 月曜 晴

午前六時四十分出勤、午後四時退出。終日三門甲／三を再調査す。

九月二十六日 火曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門甲三残部と／三門甲四（稿者注、国文）全部再調査す。指物屋棚を直しに來たり。／午後二時間手伝ひくれたる児童、宮石博、鶴見健吉、／森下周之助。

九月二十七日 水曜 曇

午前七時出勤、午後四時退出。午前、三門甲のカードを分類し、午後、三門甲五（稿者注、和歌・連歌・俳諧）を再調査にかゝる。午後、久米光／男、白井万寿雄、二時間半。森下周之助、二時間手伝ひくれたり。

九月二十八日 木曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。終日三門甲五を再調査／す。午後、鶴見健吉、二時間。森下周之助、深谷茂、一時間／手伝ひくれたり。元刈谷稲垣清作氏、史記評林⁽¹⁾一部廿五冊寄贈さる。

九月二十九日 金曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。終日、三門甲五／を再調査す。午後一時間半、深谷茂、手伝ひくれたり。／棚三個出来す。

九月三十日 土曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。終日、三門甲五再調査／す。午後二時間、森下周之助、一時間、深谷茂、手伝ひく／れたり。

十月一日 日曜 曇

午前七時出勤、午後四時退出。角谷司書、全日出勤、／竹田司書、午後出勤。三門甲五を再調査し、一門^全二門乙一（稿者注、一門、神祇、二門乙一、哲学・総記雑書）全部棚に詰む。午前四時間、森下周之助、白／井万寿雄、鶴見健吉、森次郎、久米光男、手伝ひく／れたり。

十月二日 月曜 雨

半日欠勤、午前十一時出勤、午後四時退出。三門甲五（稿者注、和歌・連歌・俳諧）／再調査し、午後休憩後、手伝ひくれたる児童の時間数を／書上ぐ。午後二時間、深谷茂、一時間半、森下周之助、鶴／見健吉、高須豊、一時間、森次郎、手伝ひくれたり。

十月三日 火曜 曇

午前七時四十五分出勤、午後四時三十分退出。■今日より／再調査を見合せて、第一門（稿者注、神祇）よりの書にカードを挟みつゝ／棚につむ。第二門の乙二（稿者注、支那哲学）中ばにて止む。午後一時間半、／白井萬寿雄、森下周之助、池田秀夫、森次郎、一時間半／手伝ひくれたり。

十月四日 水曜 曇

午前七時十分前出勤、午後四時退出。昨日に続き、第三／門三（稿者注、詩漢文）中ばまで棚に詰む。

十月五日 木曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。三門三より三門四（稿者注、詩漢文、国文）まで／棚に詰む。午後一時間半、久米光男、同一時間、高須豊、／森下周之助、手伝ひくれたり。

十月六日 金曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門甲四国文の／書を終りて、更に三門甲五、歌書を棚に詰めおく。高須豊、／鶴見健吉、森次郎、午後一時間手伝ひくれたり。

十月七日 土曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門甲五より三門／乙二（稿者注、甲、文学、五和歌・連歌・俳諧、六、狂歌・狂句・戯文、七、小説、八、詞曲・謡曲・戯曲・俗曲、九、尺牘、十、演説、十一、書目・解題、乙、語学、一、総記雑書、二、言語）まで棚に詰む。

十月八日 日曜 晴

午前八時十分前出勤、午後四時過退出。宍戸先生午前中来館。不審書類を伺ひたり。午後、竹田、角谷／両司書と今後の方針数事を協議し、三時三人にて／宍戸先生訪問、意見を伺ひたり。午前三時間、森下周之／助、久米光男手伝ひくれたり。

十月九日 月曜 曇

午前七時四十分出勤、午後四時退出。昨日、宍戸先生方にて決定したる詰め方により、第一門以下詰め直

す。午後二／時間、久米光男、森次郎、高須豊、鶴見健吉、一時間半、森／下周之助手伝ひくれたり。

十月十日 火曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。一門より三門に到る。／中判の書を棚に詰、四門甲一、二（稿者注、甲、歴史、一、総記雑書・史論、二、正史）のカードの誤りを訂す。

十月十一日 水曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時過退出。午前、四門／甲一、二のカードを^{整理}再調査し、午後、二階の四門甲一、二の書／を下し、カードを挟む。久米光男、午後二時間手伝ひく／れたり。

十月十二日 木曜 雨

午前七時三十分出勤、午後四時退出。四門甲二歴史書／類の門、正史雑史を分類し、棚へ詰む。午後一時間、森下／周之助手伝ひくれたり。

十月十三日 金曜 雨

午前七時三十分出勤、午後四時退出。四門甲五（稿者注、三、雑史、四、記録・日記、五、伝記）まで大判／の書全部詰め終る。

十月十四日 土曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。四門甲（稿者注、歴史）中判の／書全部詰め終る。久米光男、森下周之助、午後一時／間半手伝ひくれたり。

十月十五日 日曜 曇

午前七時四十分出勤、午後四時退出。角谷司書出勤。／四門乙（稿者注、地理）より五門（稿者注、法制・経済・社会）全部の書を分類し、カードを挟みたり。／午後、四門乙の書を棚へ詰む。午前中四時間、白井満寿／雄、小笠原洪一、池田秀夫、森次郎、森下周之助、鶴／見健吉、宮石博、手伝ひくれたり。

十月十六日 月曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。五門全部棚へつむ。

十月十七日 火曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。六門（稿者注、数学・理学・工学・医学）の書を分／類し、カードを挟み、大判の丁二まで棚につむ。午前三／時間、森下周之助、二時間、鶴見健吉も手伝ひくれたり。

十月十八日 水曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。第七門（稿者注、兵事・産業・交通・家庭）全部棚／へ詰め終る。

十月十九日 木曜 曇

午前七時五十分出勤、午後四時三十分退出。第七、八、二／門（稿者注、兵事・産業・交通・家庭、美術・芸・工芸）を全部棚へつむ。

十月二十日 金曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。第九、十門（稿者注、類書・叢書・随筆・全集、雑書・講議録・新聞紙・雑誌・官報・広報）を棚へ詰／め終る。

十月二十一日 土曜 晴

書籍、昨日を以て一通り詰め終りたれど、棚二個餘□（稿者注、判読不明）／生じたるにより、詰め方を改正し、六門（稿者注、数学・理学・工学・医学）以下を二階とし、／中判と小判とは混合して、上三段につめる事とせり。／六門の中判の書を二階に移し、小判のものと共に棚につむ。／午前七時二十分出勤、午後四時退出。

十月二十二日 日曜 曇

午前七時四十分出勤、午後四時退出。七門以下十門（稿

者注、兵事・産業・交通・家庭、美術・諸芸・工芸、

類書・叢書・隨筆・全集、雜書・講議録・新聞紙・雜

誌・官報・広報）ま／での小判中判の書を棚へつむ。

午前十一時、高須館長出／席。今後の打合せす。午後、

七門（稿者注、兵事・産業・交通・家庭）、大判の書を

二階に運／びて棚につむ。午前三十分、森次郎、三時

間、久米光男、／手伝ひくれたり。

十月二十三日 月曜 晴

午前七時四十分出勤、午後四時三十分退出。第一門よ

り第五門（稿者注、神祇、宗教・哲学・教育、文学・

語学・修辭、歴史・地理、法制・経済・社会）／まで

の中判及び小判の書を詰め直す。全部終りたり。

十月二十四日 火曜 晴後曇

午前七時十分出勤、午後四時退出。第一門（稿者注、

神祇）より大判の／書を詰め直す。四門甲（稿者注、

歴史）まで終りたり。

十月二十五日 水曜 雨後晴

午前七時出勤、午後四時退出。四門乙（稿者注、地理）

以下、五門丙三（稿者注、風俗）まで／詰め直し、更

に三門甲四、国文書を尾崎雅嘉の群書／一覽によりて

揃へたり。

十月二十六日 木曜 曇

午前七時十五分出勤、午後四時退出。昨日に続き、

／三門甲五の歌書を群書一覽により撰集、私撰、家／

集、歌合、百首、千首類、類題、雜撰歌、歌学の順に

／詰め直したり。大判の書全部終り、中小判半ばにて

止む。

十月二十七日 金曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。三門乙二、国語

書／類を言語、音韻、文字、文典の順に配列す。中小

判の分だけ／終る。歌書、昨日の残り詰め終る。

十月二十八日 土曜 曇後雨

午前七時出勤、午後四時十五分前退出。三門乙二の国

／語書類、大判のものを昨日の如く配列す。午前十時、

穴戸／先生訪問、ご不在なりき。

十月二十九日 日曜 雨

午前七時三十分出勤、午後四時退出。第五門（稿者注、

法制・経済・社会）及び四門／乙（稿者注、地理）を

全部配列し直し、更に四門甲、歴史、中国史の／正史

を配列し直したり。

十月三十日 月曜 晴

午前七時四十分出勤、午後四時三十分歴史の雑史類を
／詰め直す。午前十時半より亀城、小高原、□□（稿
者注、判読不明）運／動会を見る。午後四時三十分退
出。

十月三十一日 火曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時退出。午前中、雑書類
を／整理し、今月中手伝ひくれたる児童と其時間数を
調／ぶ。午後、第一門より本とカードに登録番号を記
入／しおく。第二門甲（稿者注、宗教）中ばまで終り
たり。

十一月一日 水曜 雨

午前七時出勤。昨日に続き、第二門甲（稿者注、宗教）
より乙（稿者注、哲学）全部、／本とカードに登録番
号を打ちたり。母病気に付、三時／半過退出す。

十一月二日 木曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時十五分退出。三門甲三、
詩漢／文を漢籍解題の順によりて配列し、番号を打つ。
本邦人の／部は、和漢名詩選によりて配列せし。

十一月三日 金曜 晴

立太子式当日に付、謹で休業す。

十一月四日 土曜 晴

午前七時四十分出勤、午後四時十分退出。三門甲四（稿
者注、国文）より／三門甲五、歌書、勅撰集まで番号
を打つ。午前十時、宍戸／先生訪問。不審事項を伺ひ
たり。新学期以後、十月末日／まで手伝ひくれたる児
童と其時間数を書上げ、高須／館長に呈出す。

十一月五日 日曜 晴

臨時一日休業す。

十一月六日 月曜 晴

午前八時出勤、午後四時十五分退出。三門甲五第四棚
／後半並に第五棚四分一、番号を打ちたり。午後四十
分／間、公会堂に武富濟氏⁽¹²⁾の講演を聴く。

十一月七日 火曜 晴

午前八時出勤、午後四時半退出。第五棚全部と第六／
棚^四半分に番号を打ちたり。

十一月八日 水曜 晴後曇

午前七時十五分出勤、午後四時退出。第六棚を終り、
／第七棚約三分一、番号を打ちたり。午後一時間、角
谷司書／と目録の書き方を協議す。

十一月九日 木曜 雨

午前八時出勤、午後四時半退出。第七棚全部番号を打つ。午後三十分、高須館長及び両司書と目録の書き／方に付、協議せり。明日、北白川宮殿下、来刈。依つて／午後は図書館を掃除せり。久米光男、白井万寿雄、午／後一時間手伝ひくれたり。

十一月十日 金曜 雨

出勤したれど、作業せず。

十一月十一日 土曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時半退出。書き上げたる登／録番号の頁誤謬を正し、第一門（稿者注、神祇）全部、目録に浄書したり。／書庫の梯子段取付ける。午後一時間、久米光男、森次郎、／手伝ひくれたり。

十一月十二日 日曜 晴

午前七時出勤、午後四時退出。第二門（稿者注、宗教・哲学・教育）のカード整理し、／順序を正し、第八棚全部に番号を打ち終る。二階の手擦／り出来上る。ついでにガラス障子の動かざるを直さしたり。

十一月十三日 月曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時三十分退出。第九門（稿

者注、類書・叢書・随筆・全集）全部／番号を打つ。午後二時間、久米光男、森次郎、手伝ひくれ／たり。

十一月十四日 火曜 晴

午前七時十五分出勤、午後四時退出。第九棚全部番号を打ち、これにて階下の書全部終りたり。二階の／書に移る前に一康通り調査すべく、午後少しく第二門（稿者注、宗教・哲学・教育）／の目録を書きかけた

十一月十五日 水曜 雨

午前七時三十分出勤、午後四時退出。第二門甲、宗教の／目録全部書き上げたり。

十一月十六日 木曜 曇

午前七時三十分出勤、午後四時十五分退出。第二門乙／哲学書類を^{目録}をかく。午後、児童四名を督し書／庫全部の書の番号を調ぶ。白井万寿雄、久米光男、森／下周之助、森次郎、午後二時間手伝ひくれたり。

十一月十七日 金曜 雨

半日欠席。午後四時間、二門乙二（稿者注、支那哲学）の目録かく。一時間、／白井万寿雄、森下周之助、森次郎、手伝ひくれたり。

十一月十八日 土曜 晴

半日欠席。午後四時間、二門乙二の目録書終り、／階下の書の番号の誤りを訂正す。一時間、白井万寿／雄、森下周之助、鶴見健吉、森次郎、手伝ひくれたり。

十一月十九日 日曜 晴

午前八時十五分出勤、午後四時三十分退出。／二門乙四（稿者注、倫理）より三門甲二（稿者注、合集）まで目録を書き上げたり。／明日より又、二階の書に番号を打つべし。

十一月二十日 月曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。二階第十一棚／を整理し、番号打つ。午後一時間半、久米光男、／白井万寿雄、鶴見健吉、森下周之助、森次郎、手伝ひくれたり。

十一月二十一日 火曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。午前、三門甲三、詩／漢文の目録かく。穴戸先生来訪さる。諸々種々／不審を伺ひたり。午後、二階第十二棚に番号打つ。

十一月二十二日 水曜 晴

午前八時出勤、午後四時半退出。終日三門甲三（稿者

注、詩漢文）の／目録かく。未だ書き終らず。

十一月二十三日 木曜 晴

午前八時十五分出勤、午後四時半退出。／三門甲三の目録を書き終りたり。午後一時間、／森下周之助、白井万寿雄、鶴見健吉、高須豊、／手伝ひくれたり。

十一月二十四日 金曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。三門甲四、国文書類／の目録書き上げ、二階第十三棚の書に番号を打ち／たり。

十一月二十五日 土曜 雨

午前八時出勤、午後四時十五分退出。第十三棚に／番号打ち、三門甲五（稿者注、和歌・連歌・俳諧）の目録かく。午後一時間、森下／周之助、白井万寿雄、久米光男、森次郎、手伝ひくれたり。

十一月二十六日 日曜 雨

午前八時出勤、午後四時半退出。終日三門甲五の／目録かく。午前二時間、森下周之助手伝ひくれたり。

十一月二十七日 月曜 曇

午前七時半出勤、午後五時退出。三門甲五の目録／かく。午前、三河鉄道株主数名、午後、岡崎師範学生

／ 廿二十名の参観ありたり。午後、久米光男、一時間。

十一月二十八日 火曜 晴

午前七時四十分出勤、午後四時退出。三門甲五の目録／書き上ぐ。午後一時間、森下周之助、白井万寿雄、久米光／男、手伝ひくれたり。

十一月三十日 水曜 雨

午前七時四十分出勤、午後四時退出。三門甲六（稿者注、狂歌・狂句・戯文）以／下、甲十一（稿者注、書目・解題）まで目録書上ぐ。

十一月三十日 木曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門乙（稿者注、語学）の目録か／き、二階第十三棚の番号打つ。

十二月一日 金曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。三門乙の目録／書き終り、四門、歴史の目録を書きおく。白井万寿／雄、森次郎、午後一時間手伝ひくれたり。

十二月二日 土曜 雨

午前八時出勤、午後四時退出。四門甲一（稿者注、総記雑書・史論）の目録／かく。午後一時間、白井万寿雄、久米光男、森下周之助、森次郎、手伝ひくれた

り。

十二月三日 日曜 晴

午前八時三十分出勤、午後四時半退出。二階第十三棚、十四／棚の番号打ちたり。午後、角谷司書出勤。午前二時／間半、久米光男、森下周之助、森次郎、午後二時間／半、白井万寿雄手伝ひくれたり。

十二月四日 月曜 曇

午前八時三十分出勤、午後四時退出。四門甲三（稿者注、雑史）の目録か／き、二階第十五棚に番号打ちたり。

十二月五日 火曜 晴

午前七時三十分出勤、午後四時退出。四門甲四（稿者注、記録・日記）及び五（稿者注、伝記）の目／録かく。午後一時間半、白井万寿雄、森下周之助手伝ひくれたり。

十二月六日 水曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。四門甲四、五の目録／書き終り、二階の書、全部番号つけ終る。白井万寿雄、森下周之助、午後二時間半手伝ひくれたり。

十二月七日 木曜 曇

午前八時出勤、午後四時退出。四門甲六（稿者注、年表）、七（稿者注、雑考）書き終り、四門／乙一（稿者注、地理、総記雑書）全部かく。午後一時間半、久米光男、白井万寿／雄、森下周之助、森次郎手伝ひくれたり。

十二月八日 金曜 雨

午前八時出勤、午後四時退出。四門乙二（稿者注、地誌）の目録かく。／白井万寿雄、久米光男、森次郎、午後一時間手伝ひ／くれたり。

十二月九日 土曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。四門乙（稿者注、地理）の目録全部書／き終る。

十二月十日 日曜 曇

午前八時半出勤、午後四時退出。五門甲（稿者注、法制）の目録かく。

十二月十一日 月曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。五門乙（稿者注、経済）の目録かき／終り、六門（稿者注、数学・理学・工学・医学）に入る。

十二月十二日 火曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。六門甲乙（稿者注、数学・理学）の目録／かく。

十二月十三日 水曜 晴

午前八時半出勤、午後四時半退出。六門丁（稿者注、医学）の目録／かく。

十二月十四日 木曜 雨

午前八時十五分出勤、午後四時十分退出。／六門、丁一、二（稿者注、医学、総記雑書、和漢古方）の目録かく。

十二月十五日 金曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。六門、丁三より八（稿者注、基礎医学、臨床医学、法医学、衛生看護学、獣医学、薬学）ま／まで目録かく。

十二月十六日 土曜 晴

午前八時出勤、午後四時退出。七門、甲三（稿者注、兵器及古代武器）の目録かく。／午後三十分、久米光男、森次郎手伝ひくれたり。

十二月十七日 日曜 曇

午前八時二十分出勤、午後四時退出。七門、甲三より／七門、丁三（稿者注、甲、兵事、三、兵器及古代武

器、四、陸海軍、乙、産業、一、総記雑書、二、農林、三、商業、四、工業、丙、交通、二、海運、丁、家庭、一、総記雑書、二、家政、三、家事）までの目録かく。森下周之助、午前一時間半／手伝ひくれたり。

十二月十八日 月曜 晴

午前八時二十分出勤、午後四時退出。第八門（稿者注、美術・諸芸・工芸）全部の目／録かく。

十二月十九日 火曜 曇

臨時一日休業。

十二月廿日 水曜 晴

半日休業。午前八時出勤、正午退出。／九門甲（稿者注、類書）の目録かく。

十二月廿一日 木曜 晴

午前八時半退出出勤、午後四時退出。／終日、九門丙、随筆のカードを整理す。

十二月廿二日 金曜 晴

午前八時四十分出勤、午後四時三十分退出。昨日整／理したる九門丙の目録かく。

十二月廿三日 土曜 晴

半日休業。午前八時十五分出勤、^{正午}午後退出。／九門丙

二（稿者注、外国人随筆）及び丁（稿者注、全集）の目録かく。

十二月廿四日 日曜 晴

午前八時半出勤、午後四時退出。／十門（稿者注、雑書・講議録・新聞紙・雑誌・官報・広報）の目録書き終り、これにて仮目録全部書上た^物。

十二月廿五日 月曜 曇

午前八時十分出勤、午後四時退出。午前中、新刊購求／書冊を調査す。午後、^{岩波書店}岩波書店へ図書目／録を請求し、仮目録の著者の年代を調査す。

十二月廿六日 火曜 曇

午前八時四十分出勤、午後四時退出。雑誌、学生に依りて／購求書目調べ、仮目録中の著者の年代、学説を調ぶ。

十二月廿七日 水曜 晴

午前八時三十分出勤、午後四時退出。学生によりて購求／書目調査し、^{図解人名辞典}図解人名辞典にて七書の著者を調ぶ。

十二月廿八日 木曜 晴

午前九時出勤、午後四時退出。庫の中を大掃除し、／湯を沸して雑巾かけた^り。昨日に続き著者を調ぶ。

十二月廿九日 金曜 晴

午前八時三十分出勤、午後四時三十分退出。書き上げ
／たる仮目録の番号をカードと照合す。午後庫の内／
に雑巾かけたり。森次郎、午前午後二時間、白井万寿
／雄、鶴見健吉、一時間手伝ひくれたり。

十二月卅日 土曜 晴

午前八時三十分出勤、午後四時退出。牛本日^{ウシノヒ}を以て、
／著者の年代、学説調べ終る。午後、宍戸家より／蓬
蘆雜抄其他、百七十二冊領収す。森下周之助、午後
前一時間手伝ひくれたり。

十二月卅一日 日曜 晴

午前九時出勤、午後四時退出。／図書館の大掃除^じ、
雑巾かく。久米光男、午後三時間／手伝ひくれたり。
(以下、次号に続く)

【注】

(1) 宍戸俊治(慶応二(一八六六)年—大正一四(一九二五)
年)。医師・町会議員。宍戸俊治氏については、富士川英
郎『讀書好日』(小澤書店、一九八七年)所収の「森銃三
さんと宍戸俊治氏」に詳しい。藤井清七(文久三(一八

六三)年—昭和二〇(一九四五)年)。後に刈谷町長とな
り、刈谷中学校と刈谷高等女学校の創設に力を発揮した
(中根義二編『碧海知名人士録』参照)。

(2) 村上忠順の蔵書は一部、現在も豊田市の村上家に残る。

『村上忠順家所蔵図書目録』(豊田市教育委員会、二〇〇
九年)参照。

(3) 森の仕事を手伝った亀城尋常高等小学校の児童は以下の
通り。森下周之助、深谷茂、宮石博、久米光男、森次郎、
岡本実次、白井満寿雄(萬寿雄)、小笠原孝一(洪一)、
吉川政吉、竹中治助、池田秀夫、高須豊。以上一二名は、
尋常科第七回、大正五年三月尋常科卒業、高等科第十回、
大正七年三月高等科卒業(『昭和十年二月／創立六十周年
記念／同窓名簿／愛知縣碧海郡／亀城尋常高等小學校』
による。深谷茂は、名簿には「神谷茂」(旧姓深谷)、小
笠原孝一(洪一)は「小笠原洪一」とある)。他、山口寛
太郎(尋常科第五回、大正三年三月尋常科卒業、高等科
第八回、大正五年三月高等科卒業)、阪田林之助(尋常科
第六回、大正四年三月尋常科卒業、高等科第九回、大正
六年三月高等科卒業。名簿には「坂田林之助」とある)、
鶴見健吉と正木正夫(『昭和十年二月／創立六十周年記念
／同窓名簿／愛知縣碧海郡／亀城尋常高等小學校』にそ
の名を拾うことができない)の名が見える。

(4) 高須鉦吉（なたきち）（元治元（一八六四）年―大正一五（昭和元、一九二六）年）、初代刈谷町立刈谷図書館長（『かりや市民だより』、平成一四年一月一五日号）。

(5) 岡本廣大郎（こうたろう）（慶応二（一八六六）年―大正二二（一九三三）年）、明治四四年九月から大正元年七月まで刈谷町議会議員を勤めたあと、同四年六月に刈谷町長に推され同八年九月まで勤め、そのあと再び同一〇年七月から同一二年一月まで町長を勤めた（『かりや市民だより』、平成一七年一月一五日号参照）。

(6) 六月十九日 月曜の「森囀^{ヌマ}托、午前八時ヨリ出席、執務。」までの筆跡と、同日「午後五時半退出。」以下の筆跡は異なる（図版参照）。「六月二十日 火曜 雨」の記述の最後に「以下、森生記」とあることから、以下の記述が森銃三によるものとわかるが、実際の森の記述は、図版を見ればわかるように前日、六月十九日の「午後五時半退出。」からである。

(7) 志賀重昂（しがしげたか、文久三（一八六三）年―昭和二（一九二七）年）は、日本の地理学者、衆議院議員。地理学権威、「日本風景論」「南洋時事」を著す。岡崎市名誉市民。

(8) 万燈祭（または万灯祭、まんどまつり、まんとうまつり）。刈谷市銀座にある秋葉神社の祭礼で、江戸時代中期から

続いている夏祭りであり、火難防除・町内安全を祈願する。毎年七月の最終土曜日と日曜日に盛大に行われる。愛知県の無形民俗文化財に指定されている。

(9) 新須磨海水浴場。愛知県碧南市にかつて存在した海水浴場で、兵庫県神戸市の須磨海水浴場に似ていることから名付けられた。大正三年七月に開かれ、県内でも有数の避暑地となるが、昭和三四（一九五九）年の伊勢湾台風襲来により、その後海岸に護岸工事が行われ、また昭和三九（一九六四）年の衣浦港起工による工業地帯の造成により、海水浴場は姿を消した。

(10) 巖谷小波（いわや・さざなみ、明治三（一八七〇）―昭和八（一九三三）年）は、明治から大正にかけての作家、児童文学者、俳人。久留島武彦（くるしま・たけひこ、明治七（一八七四）年―昭和三五（一九六〇）年）は、大分県玖珠郡森町（現・玖珠町）出身の児童文学者。童謡『夕やけ小やけ』の作詞者として知られる。「博文館に巡回講演部主任として迎えられた時（明治四十二年）からは、巖谷と手分けして日本全国をくまなく講演をして回った」（草地勉『メルヘンの語部 久留島武彦の世界』西日本新聞社、一九七八年）。講演当日の様子は、巖谷小波自身が「残る蟬^{せみ}」（『少女世界』第十一卷第十号、大正五年十月、博文館）という小文に書いている。「……時^{とき}

は十六日の午後。夜行汽車で着いた私は、宿で一ト息入れると間もなく、會場なる國技館へ行って見た。みると午前九時からの會は、もう中途以上進んで居るのに、溢れる斗りの少年少女は、あの蒸す様な暑氣の中を、別に倦んだ様子もなく、私の登壇を迎へて呉れた。○午前に出て話した久留島君が、何しろ大勢だから骨が折れると、汗を拭きながら話して居たが、なるほどこれは非常な人数だ。一萬と云つたら少し大袈裟だが、七八千は確かに居たらしい。私の今までに出た會で、こんな大勢なのは初度だ。●何しろ暑い日中の事だ。各自が動かす扇子の音だけでも、何となくザワくして居る。その中で話さうと云ふのだから、尋常大抵の事ではない。それで私も覺悟をして、身體中の汗と共に、出来る丈の聲を振りしほつた。○思ふに半分は聞えなかつたらう。それでもあの大勢の人が、三十分斗りの間と云ふもの、兎も角も騒がずに居てくれたのは、私も大きに嬉しく思つた。思ふにあの中には、兼て顔馴染のある愛讀諸嬢も居たのだらうが、何しろあの人數では、何所に何人が居るのやら、とてもく解るものでない(以下略)。

(11) 『村上文庫圖書分類目録』の一〇〇頁下段に著録される『史記評林』(請求番号、三三三二一。目録は「三三二二一」と誤る)には、村上文庫の印が押されていない。村上家

(12) 旧蔵のものではなく、稲垣清作氏寄贈のものか。
武富濟(たけとみ・わたる、明治一二(一八七九)年—昭和一二(一九三七)年)。愛知県刈谷村(現、刈谷市)出身。検事、弁護士、衆議院議員。『かりや市民だより』第一八七〇号、二〇〇四年九月、「刈谷人物 名鑑30」参照。